

表示名	項目名	当院基準範囲 (又はカットオフ値)	単位	備考	解 説
尿・髄液・(便)					
尿一般					
pH		4.5～7.5	4.5～7.5		通常尿は弱酸性です。
比重	比重	1.005～1.030	—		腎臓の希釈する力・濃縮する力をみることができます。水分の摂取量や発汗などで変動します。
色調	色調	淡黄色～黄色	—		麦わら黄色から淡黄褐色(コハク色)ですが、色調の濃さは比重とほぼ並行します。腎臓で作られるウロビリンの色素や投与薬物の影響で変化します。
混濁	混濁	透明	—		尿の濁りを評価しています。粘液や尿中の塩類、血球、細胞、細菌、特殊な蛋白により濁りが生じることがあります。
ビリルビン	ビリルビン	—	—		肝臓の病気などでビリルビンが増えている時に陽性もしくは増加を示します。
ウロビリノゲン	ウロビリノゲン	NORMAL	NORMAL		
ケトン体	ケトン体	—	—		飢餓状態や糖尿病の悪化などで陽性になります。
尿蛋白	尿蛋白	—	—		主に腎臓や膀胱などの病気で陽性になります。
グルコース	尿糖	—	—		糖尿病などで陽性となりますが、陰性だからといって糖尿病でないとはいえません。
亜硝酸塩	亜硝酸塩	—	—		尿路感染症があると陽性になります。
尿沈渣					
赤血球	赤血球	1～4	個/HPF以下		腎臓や膀胱などの状態がわかります。尿中には健康な方でもいろいろな成分が排泄され、それぞれの成分の医学的な意義は他の検査結果と併せて判定されます。
白血球	白血球	1～4	個/HPF以下		
扁平上皮	扁平上皮	出現量にかかわらず基準範囲内			
尿路上皮	尿路上皮	1	/HPF未満		
尿細管上皮	尿細管上皮	1	/HPF未満		
細菌	細菌	+1	以下		
硝子円柱	硝子円柱	1	個/LPF未満		
免疫・血清					
プロカルシトニン	プロカルシトニン	0.25	ng/mL未満	(抗菌薬 投与判断値)	細菌感染症のマーカーです。全身性の細菌感染で上昇します。
TP抗体	TP抗体	—			梅毒に感染しているかがわかります。
HTLV-Ⅰ/Ⅱ	HTLV-Ⅰ・Ⅱ抗体	—			成人T細胞性白血病ウイルスに感染しているかがわかります。
HIV-Ag・Ab	HIV-抗原・抗体	—			ヒト免疫不全ウイルスに感染しているかがわかります。
HBsAg定性	HBs抗原	—			現在B型肝炎ウイルスに感染しているかがわかります。
HBs抗体	HBs抗体	— 10.0	mIU/mL未満		過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがあるか、B型肝炎ワクチンを接種した場合に陽性になります。
HCV抗体	HCV抗体	—：1.0 陽性：1.0 低力価陽性：1.0～4.9 中力価陽性：5.0～49.9 高力価陽性：50.0	C.O.I.未満 C.O.I. 以上 C.O.I. C.O.I. C.O.I. ～		現在C型肝炎ウイルスに感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。
IgG	免疫グロブリンG	861～1747	mg/dL	※	免疫グロブリンは免疫に関わるタンパク質で、感染症、免疫の病気、血液の病気などの診断に役立ちます。
IgA	免疫グロブリンA	93～ 393	mg/dL	※	
IgM	免疫グロブリンM	男性： 33～ 183 女性： 50～ 269	mg/dL	※	
IgE	免疫グロブリンE	360.9	IU/mL以下		
C3	補体第3成分	73～138	mg/dL	※	補体は免疫に関するタンパク質でC3、C4はその代表的な2つです。CH50は補体の働きの総和をあらわします。免疫の病気や感染症などで増えたり減ったりします。
C4	補体第4成分	11～ 31	mg/dL	※	
CH50	血清補体価	30～ 46	CH50/mL		
RF	リウマトイド因子	15	IU/mL以下		関節リウマチで増加しますが、そのほかの病気などでも増加します。これらの検査が陽性だからといって関節リウマチとは判断できません。
抗核抗体/抗体価	抗核抗体	—：40	倍以下		免疫の病気では自分の体の細胞を攻撃してしまう自己抗体が現れます。抗核抗体は自己抗体の代表的なもので、自己免疫性の病気で陽性となります。

※共用基準範囲：全国共通の基準範囲です。採用している施設であれば、どの医療機関で検査を受けても、同じ判断が可能となります。